

地域に対する愛着の形成過程の検討*

Psychology of Place Attachment *

引地博之**・青木俊明***・大淵憲一****

By Hiroyuki HIKICHI**・Toshiaki AOKI***・Ken-ichi OHBUCHI****

1. はじめに

近年、愛着を持てる地域づくりが重要視されている。実際に、多くの地方自治体でも愛着の持てる地域づくりに関する事業が行われていることから¹⁾、この課題に多くの関心が集まっていると言える。

地域に対する愛着を扱った研究では、愛着を持つ住民ほど、地域活動への参加意向やコミュニティバスの利用率が高い²⁾ことが報告されている。地域活動への参加や公共交通の利用には、「地域社会や地球環境の保護に貢献する」といった社会貢献の側面と「私的な時間や快適な移動の機会を失う」という私的損失の側面が存在する。そのため、これらの活動には社会的ジレンマが内包されており、愛着の持てる地域づくりは社会的ジレンマの解消に大きく貢献すると言える。

しかし、愛着の持てる地域づくりに関する有効な方策は確立されていないのが現状である。これまでの愛着形成策¹⁾は経験的観点から作成されることが多かった。これに対して、心理学的観点から地域に対する愛着を検討し、その知見を提供することは、課題解決に貢献するものと考えられる。そのため、住民の地域に対する愛着形成の心理過程を検討することは、社会的ジレンマの解消だけでなく、これまでの愛着形成策の改善・熟成に寄与するという点で意義があると考えられる。

これまで、場所に対する愛着研究は多く行われてきた。例えば、Brownら⁴⁾は手入れを怠った住居や街路など、地域内の物質的環境の荒廃や治安の悪化が住民の地域に対する愛着を低下させることを示している。また、Twigger-Rossら⁵⁾は地域環境の改善や地域での有意義な思い出が愛着の形成に結び付くことを示した。これらの研究は、地域に対する愛着の形成過程を検討する際に有益な知見を提供するが、探索的な取り組みが多いため、体系的な知見が得られていない。一方、社会心理学における、Tajfel and Turner⁶⁾の社会的アイデンティティ理

論に代表されるように、集団に対する態度形成研究では多くの理論モデルが提案されている。しかし、それらは社会集団のみを研究対象とし、物質的環境は態度形成要因として考慮されていない。これに対して、Twigger-Rossら⁵⁾は、人は自分の好みに合った物質的環境で生活することで、肯定的な自尊心が得られることを示している。このことは、日常生活では社会集団だけでなく、景観などの物質的環境に態度が影響を受けることを示唆している。従って、地域に対する愛着の形成過程を検討するには、地域の物質的環境も考慮する必要があると考えられる。以上より、本研究では理論的観点から地域に対する愛着の形成過程を検討し、その促進策の方向性を提案することを目的とする。

2. 仮説

(1) 「地域に対する愛着」の定義

Hidalgoら⁷⁾は、環境心理学における既存研究を概観した上で、一般的に、場所に対する愛着は「人と特定の場所との間の情緒的な絆やつながり」として定義されると述べている。また、園田⁸⁾は地域に対して愛着を持つ人ほど、地域と自分自身の間一体感を感じることを示している。これらのことは、地域に対する愛着は、地域と個人の間情緒的な絆を形成し、心理的な一体感を高めることを示唆すると考えられる。従って、本研究ではHidalgoら⁷⁾の定義にならい、「地域に対する愛着」は「人と地域との間の情緒的な絆やつながり」と定義する。

(2) 「地域」の定義

既存研究⁷⁾では、近隣住民との日々の交流や行事への参加が場所に対する愛着形成に寄与すると述べられている。ここでは、愛着形成にとって、どの程度の交流や活動への参加が必要なのか言及されていない。しかし、日常生活において人々は、市町村のような行政区画を越えて友人との交流などを行うことから、生活行動圏内において愛着形成を促す行動が取られていると考えられる。従って、「地域」は「普段、一定の人間関係が認められる、居住地を中心とする生活行動圏」と定義する。

*キーワード：意識調査分析、地域に対する愛着

**学生員、東北工業大学大学院 工学研究科 土木工学専攻
(宮城県仙台市太白区八木山香澄町35番1号、
hhikichi@tohotech.ac.jp)

***正員、博(情)、東北工業大学 建設システム工学科

****非会員、博(文)、東北大学大学院 文学研究科

(3) 仮説

社会的アイデンティティ理論に基づけば、集団への所属意識は愛着などの情緒的な絆の形成に大きな影響を与える。集団への所属意識とは、例えば、「私はサークルの部員である」といった、集団の構成員であることを自覚する意識のことである。この所属意識は、「自分は という者である」という認識を創る、自己概念の一部を構成する。通常、人は「家族」や「研究室」「サークル」など、複数の集団に所属する。従って、個人の自己概念には、複数の集団構成員としての認識が存在する。これらのうち、所属意識の強い集団は、自己概念において重要な存在になると考えられる。このような集団に対して、人は心理的に一体感を感じ、愛着を形成すると推測される。例えば、サークルに対する所属意識が強い学生は、「大学」や「研究室」といった、他の所属集団以上にサークルが重要な存在になる。その結果、サークルに対して愛着を形成すると考えられる。これに従えば、地域への所属意識が高まるほど、地域に対する愛着も強くなると予測される(仮説1)。

また、個人にとって重要な集団は自己概念に大きな影響を与えるため、人は所属集団の評価を維持、高揚させることを動機付けられると推測される。例えば、サークルを重要視する部員は、他のサークルの部員から自分が所属するサークルを褒められることを自分自身が褒められることと同等に価値付けると考えられる。そのため、その部員はサークル活動に関するマナーを徹底するなど、協力的に行動し、サークルの評判を維持、高揚することに努めると考えられる。この例に従えば、地域に対する愛着が高まるほど、地域に対する協力的な態度も強くなると予測される(仮説2)。

次に、集団への所属意識の形成機構を考える。社会的アイデンティティ理論に基づけば、人は自尊心の維持や高揚に結び付く集団に対して、愛着などの情緒的な絆を形成する。このとき、構成員は集団の優れた要素によって、自尊心が高揚すると考えられる。例えば、サークルの部員は、試合での実績や部員間の良好な人間関係、施設の充実度といったサークルの優れた要素によって、所属することに満足感を感じ、高い自尊心を得ることができると考えられる。これに従えば、構成員の集団に対する評価が高まるほど、愛着が強くなると予測される。

このとき、地域に対する評価には、社会的側面と物質的側面の2つの側面が存在すると考えられる。例えば、Hidalgoら⁷⁾は場所の物質的次元と社会的次元に対する愛着が存在することを示した。また、Brownら⁴⁾は物質的環境の衰退が居住者の愛着を低下させる一方で、そのような場所でも高い愛着を持つ住民が存在することを報告している。これらのことから、景観のような場所の物質的環境と人間関係のような社会環境に対する評価は同一視されないものと考えられる。従って、地域に対する

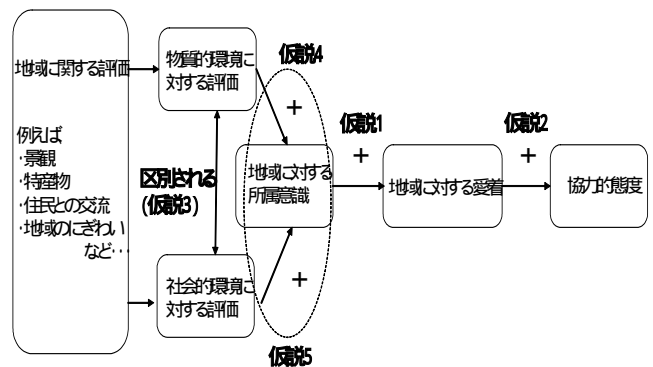


図 - 1 地域に対する愛着形成過程の仮説

評価は、物質的な評価と社会的な評価に区別することができるかと予測する(仮説3)。次に、地域の物質的環境に対する評価が高まるほど、地域に対する所属意識が強くなると予測される(仮説4)。同時に、地域の社会的環境に対する評価が高まった場合にも、地域に対する所属意識が強くなると考えられる(仮説5)。以上の仮説を図-1に示す。

3. 方法

現在、郵送配布・郵送回収による社会調査を行っている。調査対象地域は、全国の複数の市町とし、対象者はそれぞれの地域の選挙人名簿から、有権者を等間隔無作為抽出法により合計3000名選出した。調査票では、「地域」は行政区域ではなく、日頃、買い物をする場所や職場等も含めた生活行動圏を想定してもらうよう教示し、地域に関する評価や地域に対する愛着を尋ねるものとした。調査結果については、当日に紹介する予定である。

参考文献

- 1) 山口 正明ほか：名づけ・見立てによるまちへの愛着形成の促進 - 「みのおウォーク井戸端」プロジェクトの実践 - , 環境システム研究, Vol.23, pp.339-346, 1995.
- 2) 若林 直子ほか：住民の防災意識の構造に関する研究 - その3:地域コミュニティとの関わりを表す項目を含む因果モデル -, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.807-808, 2000.
- 3) 安居 克紀 ほか：コミュニティバスと住民意識に関する研究, 土木学会第52回年次学術講演概要集, pp.98-99, 1997.
- 4) Brown, B et al. : Place Attachment in a Revitalizing Neighborhood: Individual and Block Levels of Analysis. Journal of Environmental Psychology, 23, pp.259-271, 2003.
- 5) Twigger-Ross, L. and Uzzell, L. : Place and Identity Processes, Journal of Environmental Psychology, 16, pp.205-220, 2003.
- 6) Tajfel, H. and Turner, J. C.: The Social Identity Theory of Intergroup Behavior, Chicago, Nelson-Hall, 1986.
- 7) Hidalgo, C. and Hernandez, B. : Place attachment : conceptual and empirical questions, Journal of Environmental Psychology, 21, pp.273-281, 2001.
- 8) 園田 美保：地域への愛着と自己 - 地域の関与の深まり：地域の記述と距離イメージ図からとらえる地域への愛着, 日本心理学会第68回大会発表論文集, pp.246, 2004.